

# Briefing Transcription

|| 2025 年 2 月期決算説明会文字起こし ||

## 株式会社ティムス

4891 東証グロース市場

[企業情報はこちら >>>](#)

2025 年 4 月 22 日 (火)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## ■ 目次

■ 決算を受けての FISCO アナリストコメント	01
■ 出演者	02
■ 決算説明	03
■ 質疑応答	12

## ■ 決算を受けての FISCO アナリストコメント

- ・ TMS-007 (JX10) のグローバル臨床試験 (Ph2/Ph3) 開始、TMS-008 の Ph1 試験投与・観察完了と FY24 事業進捗は順調推移を確認。また、事業の進展に伴い、グローバル・ビジネスに対応できるエキスパート人材を拡充できたことは評価。
- ・ CORXEL より配当を受領し、当期純損失は前期比で縮小した。2026年2月期以降含めて、今後 CORXEL が同様の配当を実施するかは現時点で不明だが、ティムス、RTW、CORXEL における好循環サイクルが足もとで回っている現状は確認できている。
- ・ リードパイプラインである TMS-007 (JX10) は、ついにグローバルスタディが開始されている。同社も日本での臨床試験実施に向けて、社員一丸となって準備を進めている状況で、引き続き進捗に注目したい。
- ・ 同社のパイプラインと同様の製品を開発している企業は少なく、急性期脳梗塞に対して先進各国で共通に承認されている薬は「t-PA」の1つしかない。数年内に「TMS-007 (JX10)」が販売できた場合、営業収益の寄与としては少なくとも「t-PA」の年間販売額 21 億ドル強が売上の将来的なターゲットになってくる。実際、若林社長が言及するように保有するパイプラインの本質的な価値と現在の時価総額との間には大きな乖離があると認識できる。

株式会社ティムス | 2025年4月22日(火)  
4891 東証グロース市場

## ■ 出演者

株式会社ティムス  
代表取締役社長

若林 拓朗様

## ■ 決算説明



株式会社ティムス  
2025年2月期 決算説明資料

### ティムス 若林

ただ今より株式会社ティムス 2025年2月期決算説明会を開催いたします。代表取締役社長若林拓朗でございます。よろしくお願いいたします。

ハイライト、業績概要、パイプラインの内容をご説明します。TMS-007以降の個別項目については、これまでと大きな変化がないため、上記3点をご説明した後は、質疑応答へと進む予定です。

それでは、まずハイライトからご説明します。

決算説明

ハイライト



**1 TMS-007 (JX10) のグローバル臨床試験 (Ph2/Ph3) 開始**

- CORXEL主導 (旧 Ji Xing Pharmaceuticals) ※にてグローバル臨床試験「ORION」を開始
- 当社においては、グローバル臨床試験の日本パートナーとして「ORION」へ参加準備中

**これまでの経緯:**

- 2018/6/5 当社とBiogenがオプション契約を締結
- 2021/5/11 Biogenがオプションを行使
- 2023/4/25 BiogenがPh2b試験開始の一時停止・再検討を発表
- 2024/1/11 Biogenがオプション契約上の地位をCORXELに譲渡  
開発コードBIIB131からJX10へ変更
- 2025/2/5 CORXELがPh2/Ph3試験「ORION」開始を発表

※ Ji Xing Pharmaceuticals は、2024年11月より社名をCorxel Pharmaceuticals (CORXEL)に変更しました。

**2 TMS-008のPh1試験 投与・観察完了**

- 2024年6月に東京大学医学部附属病院にて健康人を対象に第1例目の投与を開始  
TMS-007 (JX10) に続く当社2件目のFIH (First-In-Human) 治験
- 2024年12月に全被験者への投与・観察を完了
  - 2025年4月(当期終了後) データリードアウト、良好な安全性・忍容性を確認

5

1点目は、TMS-007 (JX10) のグローバル臨床試験の開始についてです。これまでの経緯を記載していますが、最も直近では、今年2月5日にCORXEL社がPhase2/3臨床試験「ORION」を開始することを発表しました。この発表は、正式なプレスリリースという形ではなく、「International Stroke Conference 2025」という学会においてアナウンスされたものです。当社については、これまでお伝えしてきた通り、グローバル臨床試験における日本のパートナーとして参加する準備を進めています。

2点目は、TMS-008についてです。急性腎障害を適応として開発を進めているもので、Phase1臨床試験の投与と観察が完了しました。その後、今月4月にデータのリードアウトがあり、安全性および忍容性について良好な結果を確認しています。

株式会社ティムス | 2025年4月22日(火)  
4891 東証グロース市場

決算説明

ハイライト



3 エキスパート人材の拡充

- 事業の進展に伴い、グローバル・ビジネスに対応できるエキスパート人材を拡充
  - 事業開発部を設置するとともに、事業開発シニア・ディレクターを採用
  - グローバル臨床試験に向けて、臨床開発担当シニア・ディレクターを採用

4 ファイナンスの実施（当期終了後）

- TMS-007 (JX10) のPh2/Ph3試験「ORION」の開始にあたり、財務基盤を強化し万全の体制をもって臨むべく、新株予約権（行使価格修正条項付）の第三者割当を2025年3月に実施
  - 〔第三者割当による新株予約権発行〕
  - 割当日 : 2025年3月31日
  - 新株予約権数：80,000個（潜在株式数：8百万株）
  - 当初行使価格：192円（下限行使価額100円）

5 脊髄損傷の新規治療候補シーズを北海道大学より導入

- 2022年7月に北海道大学との間においてオプション契約を締結し、独占的評価を進めてきたシーズについて2024年7月3日にライセンス契約を締結し導入
- TMS-010として、パイプラインに追加

3点目、「エキスパート人材の拡充」についてです。当社の事業が進展する中で、グローバル・ビジネスに対応できる人材を採用しました。まず事業開発の分野では、事業開発部を新たに設置し、同部門のシニアディレクターとして、事業開発に長年携わってきた非常に優秀な人材を採用しました。また、グローバル臨床試験の推進に向けて、臨床開発担当のシニアディレクターも新たに採用しています。この方は、大手外資系製薬会社において、日本における研究開発部門のトップを長年務めた経験豊富な人材です。

4点目、「ファイナンスの実施」についてです。これは当期終了後の3月に行ったもので、いわゆる行使価格修正条項付きの新株予約権による第三者割当を実施しました。内容は記載の通りで、新株予約権数は8万個、潜在株式数は800万株となります。このファイナンスの目的は財務基盤の強化であり、特にTMS-007 (JX10) のPhase2/3臨床試験「ORION」の実施を万全の準備をもって臨むことを意図しています。

5点目に、昨年7月には脊髄損傷に対する新たな薬剤候補シーズを北海道大学から導入しました。これは、2022年7月にオプション契約を締結し評価を進めてきたものであり、臨床開発に進めるべきと判断し、新たに「TMS-010」として当社のパイプラインに加えしました。

株式会社ティムス | 2025年4月22日(火)  
4891 東証グロース市場

決算説明

ハイライト



- 6 TMS-007 (JX10) の「Stroke」への論文発表、及び ISC 2025での発表**
  - 2024年11月、アメリカ心臓学会/脳卒中学会 (AHA/ASA) が発行する学術誌「Stroke」にTMS-007のPh2a試験の結果にもとづく論文『急性期脳梗塞の受診遅延患者における抗炎症血栓溶解剤JX10 (TMS-007)』を発表
  - 2025年2月にCORXELのチーフ・メディカル・オフィサーにより、International Stroke Conference 2025にて、TMS-007 (JX10) に関するプレゼンテーションを実施
- 7 CORXELより配当受領**
  - 当社が保有するCORXELの株式について、2025年2月に配当金約225万ドル(約342百万円)を受領
- 8 決算期(事業年度の末日)の変更(当期終了後)**
  - 事業年度をグローバルスタンダードに合わせるべく、2025年度より変更予定
    - 現在 : 毎年3月1日~2月末日
    - 変更後 : 毎年1月1日~12月末日

6点目になりますが、脳卒中領域に関する論文が発表され、「International Stroke Conference 2025」においても発表が行われました。「Stroke」は、アメリカ心臓協会および脳卒中学会が発行する学術誌であり、循環器分野では非常に高く評価されている有名な雑誌です。この雑誌に、当社が日本で実施したPhase2a臨床試験の結果に関する論文が掲載されました。また、今年2月にはCORXEL社のチーフメディカルオフィサーが「International Stroke Conference 2025」にて、プレゼンテーションを行いました。

7点目として、同じく2月にCORXEL社より配当が実施されました。これは継続的な配当という位置づけではなく、一時的なものとして認識していますが、配当金として約225万ドル(受領時の為替レートで約3億4,200万円)を受領しています。

最後に、これは当期終了後の予定事項ではありますが、グローバル・スタンダードに合わせることを目的に、現在の2月期決算から12月期決算への変更を予定しています。

以上がハイライトのご説明です。



株式会社ティムス | 2025年4月22日(火)  
4891 東証グロース市場

決算説明

各プロジェクトの成果とマイルストーン



プロジェクト	成果とマイルストーン	時期
TMS-007 (急性期脳梗塞)	グローバル臨床試験ORION (Ph2/Ph3) 開始	FY24.4Q ✓
	ORION (Ph2/Ph3)のFPI (First-Patient-In)	FY25
	ORION (Ph2/Ph3) の日本コホート開始	FY25
JX09 (治療抵抗性または制御不能な高血圧)	CORXELによるPh1試験完了	FY25
TMS-008 (急性腎障害)	最初の被験者へ投与 (Ph1試験開始)	FY24.2Q ✓
	Ph1試験における全てのコホートの被験者への投与を完了	FY24.4Q ✓
	Ph1試験のデータリードアウト (安全性、忍容性、薬物動態)	FY25.1Q ✓
	次相臨床試験のデザイン完了	FY25
新規シーズ探索プロジェクト	脊髄損傷の潜在的治療薬として TMS-010 のライセンス導入によるパイプラインの拡大	FY24.2Q ✓

8

こちらは、これまでの各プロジェクトの成果と今後のマイルストーンを1枚にまとめた資料です。FY24は当期の成果を示しており、FY25は2025年12月期に予定しているマイルストーンを表しています。

当期の成果として、まずTMS-007に関しては、グローバル臨床試験が開始されました。TMS-008については、Phase1臨床試験を開始し、全被験者への投与を完了し、データリードアウトにより、安全性と忍容性が確認されています。さらに、新規シーズ探索の取り組みとして、TMS-010の導入を行いました。

2025年12月期に予定しているマイルストーンとしては、TMS-007におけるORION臨床試験のFirst-Patient-In、および日本での臨床試験開始が非常に重要な項目であると考えています。また、JX09については当社ではなく、現在CORXEL社がオーストラリアでPhase1臨床試験を実施しており、その臨床試験が完了することを予定しています。さらに、TMS-008に関してはPhase1臨床試験が終了したばかりですが、次の臨床試験のデザインを完了させることを目標としています。

株式会社ティムス | 2025年4月22日(火)  
4891 東証グロース市場

決算説明

2025年2月期の業績概要 損益計算



営業費用は概ね前年度並みの水準  
経常損失及び当期純損失は、CORXELからの株式配当金の受領により前事業年度に比べ縮小

(単位：百万円)

	2024年2月期	2025年2月期	増減	
			増減額	増減率
営業収益	-	-	-	-
営業費用	943	907	△35	△3.8%
研究開発費	607	621 <sup>1</sup>	13	2.2%
その他の販売管理費	335	286 <sup>1</sup>	△48	△14.6%
営業損失(△)	△943	△907	35	-
営業外収益	3	342	339	-
営業外費用	3	67	64	-
経常損失(△)	△943	△633	310	-
特別損失	15	26	10	69.3%
当期純損失(△)	△960	△660	299	-

注釈:  
TMS-010の導入・開発による増加の一方で、主にTMS-008の臨床・CMC費用の計上の一部期ずれにより相殺され、概ね前年度並みの水準  
CORXEL株式の受取配当金  
受取配当金の特許実施料等  
固定資産の減損損失を計上  
主に、TMS-007(JX10)、TMS-008をはじめとする各パイプラインの開発費、及びパイプライン拡充に向けた探索・導入費

2025年12月期費用の見込み<sup>2</sup>

(単位：百万円)

研究開発費	550 ~ 800
その他の販売管理費	260 ~ 350

1. 期初に公表した2025年2月期の費用の見込みは、研究開発費750~1,100百万円、その他の販売管理費300~400百万円。  
2. 決算期変更により、次期は2025年12月31日までの10ヶ月間となる予定。  
12ヶ月換算における費用の見込みは、研究開発費660~960百万円、その他の販売管理費312~420百万円。

2025年2月期の業績概要についてご説明します。

まず、損益計算書(PL)ですが、営業費用のうち研究開発費は前期比で微増、その他の販売管理費については微減となり、全体としてはやや減少しました。また、営業外収益としてCORXEL社からの受取配当金があったため、当期純損失は約3億円縮小しています。

なお、期初に公表した費用見込みは、研究開発費が7億5,000万円~11億円、その他の販売管理費が3億円~4億円としていましたが、いずれも結果的に見込みを下回る着地となりました。続いて、2025年12月期の費用見込みについてです。研究開発費は5億5,000万円~8億円、その他の販売管理費は2億6,000万円~3億5,000万円を想定しています。次期(2025年12月期)は10ヶ月の決算期間となっているため、やや小さく見えますが、12ヶ月換算に直すと、研究開発費は6億6,000万円から9億6,000万円、その他の販売管理費は3億1,200万円~4億2,000万円となり、いずれもやや増加傾向になると現時点では見込んでいます。

株式会社ティムス | 2025年4月22日(火)  
4891 東証グロース市場

決算説明

2025年2月期の業績概要\_\_キャッシュ・フロー



主に受取配当金の受領により営業キャッシュ・フローの支出は縮小  
結果、現金及び現金同等物の期末残高は29億円（前事業年度末比5億円減）

(単位：百万円)

	2024年2月期	2025年2月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△822	△493
税引前当期純利益	△959	△660
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3	△30
財務活動によるキャッシュ・フロー	688	0
株式の発行による収入	688	0
現金及び現金同等物の増減 (△は減少)	△138	△523
現金及び現金同等物の期首残高	3,584	3,446
現金及び現金同等物の期末残高	3,446	2,922

CORXELからの配当金受領により支出が縮小

11

キャッシュ・フローについてご説明します。基本的に、損益とキャッシュ・フローはおおむね同様の動きをしますが、2025年2月期に関しては、CORXEL社からの配当金の受け取りがあったため、前期と比べてキャッシュ・フローは改善しています。2025年2月末時点における現金および現金同等物の期末残高は、約29億円となっています。

2025年2月期の業績概要\_\_貸借対照表



主に研究開発費の支出により、資産合計は前事業年度末に比べ減少

(単位：百万円)

	2024年2月期末	2025年2月期末	増減	
			増減額	増減率
流動資産	3,551	3,029	△522	△14.7%
現金及び預金	3,446	2,922	△523	△15.2%
固定資産	3	3	0	0.0%
資産合計	3,554	3,032	△522	△14.7%
流動負債	97	216	119	121.9%
負債合計	97	216	119	121.9%
新株予約権	11	23	11	101.2%
純資産	3,457	2,815	△641	△18.6%
負債・純資産合計	3,554	3,032	△522	△14.7%

主にTMS-008のPh1試験費用を始めとする研究開発費、及びその他の販管費の費用支出による

主としてTMS-008にかかる外注費、及び受取配当金の特許実施料等の未払の増加による

12

貸借対照表（BS）についてご説明します。当社の資産の大部分は現金及び預金で構成されており、前期末と比べて約5億円の減少となりました。これは、キャッシュ・フローおよび損益計算書（PL）と同様の動きとなっています。

決算説明

パイプライン



3つの臨床パイプライン



TMS-007/JX10 (急性期脳梗塞)

- 急性期脳梗塞の第1選択薬となりうる新規血栓溶解薬
- Ph2a試験において、有効性・安全性ともに優れた結果を達成
- パートナーのCORXEL 主導により「ORION」と名付けられたグローバル臨床試験 (Ph2/Ph3) を開始
- 当社は日本での開発・販売権、日本以外においてはマイルストーン及びロイヤリティを受領する権利を保有

JX09 (治療抵抗性または制御不能な高血圧)

- ベスト・イン・クラスのポテンシャルを持つアルドステロン合成酵素阻害剤
- CORXELによるオーストラリアでのPh1試験が進行中
- 当社は日本での開発・販売権を保有

TMS-008 (急性腎障害)

- 承認薬が存在しない重要なアンメット・メディカル・ニーズ
- 国内にてPh1試験の投与・観察完了
- 2025年4月にデータリードアウト、安全性・忍容性を確認
- 当社はグローバルの開発・販売権を保有

14

パイプラインの現状についてご説明します。

当社は現在、3つの臨床パイプラインを保有しています。まず、TMS-007/JX10については、これまでたびたびご説明しているとおり、急性脳梗塞における第1選択薬となり得る新規血栓溶解薬です。当社が日本で実施したPhase2a臨床試験において、優れた有効性と安全性が示されたと考えています。現在は、パートナーであるCORXEL社の主導により「ORION」という名称のグローバル臨床試験が開始されており、当社は日本におけるパートナーとしてこの臨床試験に参加する予定です。また、当社は日本での開発・販売権を有するとともに、CORXEL社による日本以外での収益についての、マイルストーンおよびロイヤリティを受け取る権利を保有しています。

次に、JX09は当社がCORXEL社から日本における権利を導入した治療薬候補です。治療抵抗性または制御不能な高血圧を対象としており、アルドステロン合成酵素阻害剤という作用機序があります。現在、オーストラリアでPhase1臨床試験が進行中です。

最後にTMS-008については、現在、承認薬が存在しない急性腎障害に対する治療薬候補であり、Phase1臨床試験が完了した段階にあります。TMS-008については、当社がグローバルでの開発および販売権を保有しています。

株式会社ティムス | 2025年4月22日(火)  
4891 東証グロース市場

決算説明

パイプライン



開発コード	適応症	MoA	研究	非臨床・GLP	Ph1	Ph2	Ph3	開発&販薬化
TMS-007 (JX10)	急性期脳死症	sEH阻害 アスミノゾ	当社にてPh2aまで完了			Ph2/Ph3		日本：ティムス 日本以外：CORXEL
JX09 <sup>1</sup>	治療抵抗性高血圧	ASI <sup>4</sup>					次ステップの予定	日本：ティムス 日本以外：CORXEL
TMS-008 <sup>2</sup>	急性腎障害	sEH阻害						ティムス
	他疾患							ティムス
TMS-010 <sup>3</sup>	腎臓移植	BSSCB 保護 <sup>5</sup>						ティムス
社内プロジェクト						新規sEH (可溶性エポキシドヒドロラーゼ) 阻害化合物探索等		ティムス
社外プロジェクト						複数の社外プログラムを評価中		ティムス

上記の情報には、現在入手可能な情報に基づく当社の判断による、将来に関する記述が含まれています。そのため、上記の情報は様々なリスクや不確実性に左右され、実際の開発状況はこれらの見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

- CORXELより日本における開発権限の譲渡ライセンスを取得 (2024年1月)。
- TMS-008a, CORXELからの無償特許許諾にもつぎ当社で開発中。
- 2024年7月に北海道大学より日本を含む世界における独占的ライセンスを取得した特種損傷治療薬候補物質。
- ASI(Aldosterone synthase inhibitor)：アルドステロン合成阻害剤。
- BSSCB(Blood-brain/spinal cord barrier)保護：血液脳脊髄関門の保護を助ける。

15

パイプライン全体においては、直近のものからの変更点として、TMS-007 (JX10) が Phase2a 完了から、次相の Phase2/3 臨床試験「開始」のステータスになったことがあります。また、当年度新たに TMS-010 が追加となりました。

この後は、各パイプラインの個別説明となりますので、全体のご説明はここまでとさせていただきます。

## 質疑応答

### ★質問

中国の治験情報サイトでは中国の複数施設数とアメリカの1施設のみが開示されていますが他の国の施設の状況はどうなっていますか。

### ●ティムス 若林

本日15時30分に、中国の臨床試験登録情報サイトにおいて、中国におけるプロトコルなどの情報が開示された件について、リリースを行いました。ご質問はそれに関連する内容と理解しています。

当該登録情報には、中国国内の複数の施設およびアメリカの1施設が記載されています。それ以外の施設がないのか、あるいは他国での実施は計画されていないのかという点についてですが、本試験はグローバル臨床試験であり、実際には多くの国、そして多数の施設での実施が計画されています。ただし、本試験「ORION」を主導しているのは、当社のパートナーであるCORXEL社であるため、当社から現時点での詳細な施設情報を開示することは控えさせていただきます。なお、現時点におきましてもアメリカ、中国だけではなく、既に多くの国で治験実施の承認がなされ、治験実施施設の登録もされていると理解しております。

### ★質問

日本での治験申請状況はどうなっているのでしょうか。現時点で開示できることはあるのでしょうか。

### ●ティムス 若林

日本における治験の準備状況につきましては、誠に申し訳ありませんが、現時点で詳細な情報を開示することはできません。ただし、これまでにもお伝えしている通り、当社としては着実に準備を進めております。開示時期についても、それほど遠くない時期にご案内できる見込みであると考えています。

### ★質問

JX10の治験終了時期の目安を教えてください。Phase2臨床試験終了時に一部データの開示は計画されていますか。

### ●ティムス 若林

このご質問はよくいただく内容ではありますが、誠に申し訳ありませんが現時点では、治験の終了時期について具体的なお話をすることは差し控えさせていただきます。

これまでに終了時期について唯一お伝えしたのは、パートナーがCORXEL社に変更される前、バイオジェン社がパートナーであった時期の情報です。当時は、2026年～2028年の間に臨床試験が終了し、承認申請が可能になるのではないかとお伝えしていました。当時、バイオジェン社が次の臨床試験を2023年4月に開始する予定としておりましたが、今回、実際に臨床試験の開始となったのが2025年2月であり、約2年遅れとなりました。この点を踏まえて、ご推測していただきたいと存じます。

## 質疑応答

また、本試験は Phase2/3 として設計されており、part1 と part2 に分かれています。part1 終了時に何らかの開示があるかについても、現時点では明確なことは申し上げられません。

## ★質問

TMS-007 の日本における権利は導出されるでしょうか。導出される場合は、いつのタイミングをお考えですか。

## ●ティムス 若林

TMS-007 の導出に関してですが、現時点では決定した方針はありません。当社はバイオベンチャーであり、現時点で自社の販売体制を有しているわけではありませんが、将来的な自社販売を完全に否定するわけではありません。当社の基本的な方針としては、適切なパートナーがいれば導出するのが自然な選択だと考えています。ただし、「導出ありき」というわけではなく、自社販売の可能性も排除していないというのが現在のスタンスです。なお、現時点でもすでに関心を示してくださっている企業様はいくつかあり、そうした企業様とは継続的にお話をさせていただいている状況です。

## ★質問

TMS-007 に関して、「Phase2/3 は FDA とピボタル試験としてプロトコルのすり合わせが済んでいるとの認識でよいか」、また「FDA の人員削減による影響はあるのか」、さらに「治験実施にあたって関税の影響はあるのか」についてご説明願います。

## ●ティムス 若林

TMS-007 の Phase2/3 「ORION」臨床試験について、「ピボタル試験として FDA とすり合わせ済みであるかどうか」についてですが、現時点で当社から詳細な情報開示は控えさせていただいております。こちらは CORXEL 社主体で行う情報開示になりますので、当社はこれに合わせて開示を行ってまいります。なお、公開されている情報の中で CORXEL 社が「Registrational」という表現をしていることをお伝えいたします。

次に、「FDA の人員削減による影響」についてですが、現段階では具体的にどのような影響が当社に及ぶかは精査中です。ただし、FDA の業務遂行に何らかの影響が出る可能性はありと認識しております。

最後に、「関税の影響」に関してですが、現時点では当社製品の商業的輸出入は発生しておらず、試薬等の一部が海外から輸入されているに留まるため、関税の影響は現時点では限定的であると考えております。なお、医薬品に関する関税については、これからトランプ政権で方針決定されると聞いており、その中で当社に影響があるものがあるのか否か、注視して、精査を行ってまいります。

## 質疑応答

## ●ご挨拶 若林

ご質問も一巡したようですので質疑応答を終了とさせていただきます。

現在の当社株価については、私自身も非常に忸怩たる思いで見えております。当社が保有するパイプラインの本質的な価値と現在の時価総額との間には大きな乖離があると認識しており、そのギャップを埋めるべく、今後さまざまな施策を講じていく所存です。

特にリードパイプラインである TMS-007 (JX10) は、ついにグローバル臨床試験が開始され、当社も日本での臨床試験実施に向けて、社員一丸となって準備を進めております。また当社のミッションである「埋もれた有望な医薬品シーズを世界市場に届ける」という取り組みについても、表には出ていない水面下の活動を通じて、着実に進行しております。これらを通じて企業価値を高めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日はご多忙の中、当社の説明会にご参加いただき、誠にありがとうございました。



#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp